



HTTP サーバのディセーブル化

この章では、HTTP サーバをディセーブルにする方法について説明します。次の項目を取り上げます。

- 「HTTP サーバについて」 (P.15-1)
- 「注意事項および制約事項」 (P.15-1)
- 「デフォルト設定」 (P.15-1)
- 「HTTP サーバのディセーブル化」 (P.15-2)
- 「HTTP 設定の確認」 (P.15-3)
- 「その他の関連資料」 (P.15-3)
- 「HTTP サーバのディセーブル化の機能の履歴」 (P.15-4)

HTTP サーバについて

セキュリティ上の問題に対応するために CLI からオフにすることができる HTTP サーバは、仮想スーパーバイザ モジュール (VSM) に埋め込まれています。

HTTP サーバをオフにする場合は、次の「注意事項および制約事項」を参照してください。

注意事項および制約事項

- HTTP サーバは、デフォルトでイネーブルになっています。
- HTTP サーバがディセーブルの場合、VUM では VEM がインストールされません。VEM のインストール中に、VUM は HTTP サーバに直接通信して、VSM から必要なモジュール情報を取得します。VEM をインストールするには、次のいずれかを実行する必要があります。
 - VEM のインストール中に HTTP サーバをイネーブルにし、VEM のインストール後に HTTP サーバをディセーブルにすることによって、VUM を使用する。
 - VUM を使用せずに手動で VEM をインストールする。
- VSM から Cisco Nexus 1000V XML プラグインを取得するには、HTTP サーバをイネーブルにする必要があります。

デフォルト設定

HTTP サーバは、デフォルトでイネーブルになっています。

HTTP サーバのディセーブル化

HTTP サーバをディセーブルにするには、次の手順を実行します。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしていること。
- デフォルトでは、HTTP サーバはイネーブルになっています。

手順の概要

1. `config t`
2. `no feature http-server`
3. `show http-server`
4. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code> 例: n1000v# config t n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>no feature http-server</code> 例: n1000v(config)# no feature http-server n1000v(config)#	HTTP サーバをディセーブルにします。
ステップ 3	<code>show http-server</code> 例: n1000v(config)# show http-server http-server disabled	(任意) HTTP サーバの設定を表示します (イネーブルまたはディセーブル)。
ステップ 4	<code>copy running-config startup-config</code> 例: n1000v(config)# copy running-config startup-config [#####] 100% n1000v(config)#	(任意) リポート後に永続的な実行コンフィギュレーションを保存し、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーして再起動します。

例:
config t
no feature http-server

HTTP 設定の確認

HTTP 設定を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show http-server</code>	HTTP サーバの設定を表示します。 例 15-1 を参照してください。
<code>show feature</code>	LACP などの使用可能な機能と、それらがイネーブルかどうかを表示します。 例 15-2 を参照してください。

例 15-1 show http-server

```
n1000v(config)# show http-server
http-server enabled
n1000v(config)#
```

例 15-2 show feature

```
n1000v(config)# show feature
Feature Name      Instance  State
-----
dhcp-snooping    1         disabled
http-server       1         disabled
ippool            1         disabled
lACP              1         disabled
netflow           1         disabled
private-vlan     1         disabled
sshServer        1         enabled
tacacs            1         disabled
telnetServer     1         disabled
n1000v(config)#
```

その他の関連資料

Telnet の実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「関連資料」 (P.15-3)
- 「標準」 (P.15-4)

関連資料

関連項目	参照先
すべてのコマンド構文、コマンド モード、コマンド履歴、デフォルト、使用上のガイドライン、例	『Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.2(1)SV1(5.1)』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

HTTP サーバのディセーブル化の機能の履歴

ここでは、HTTP サーバのディセーブル化のリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
HTTP サーバのディセーブル化	4.2(1)SV1(4)	この機能が導入されました。